

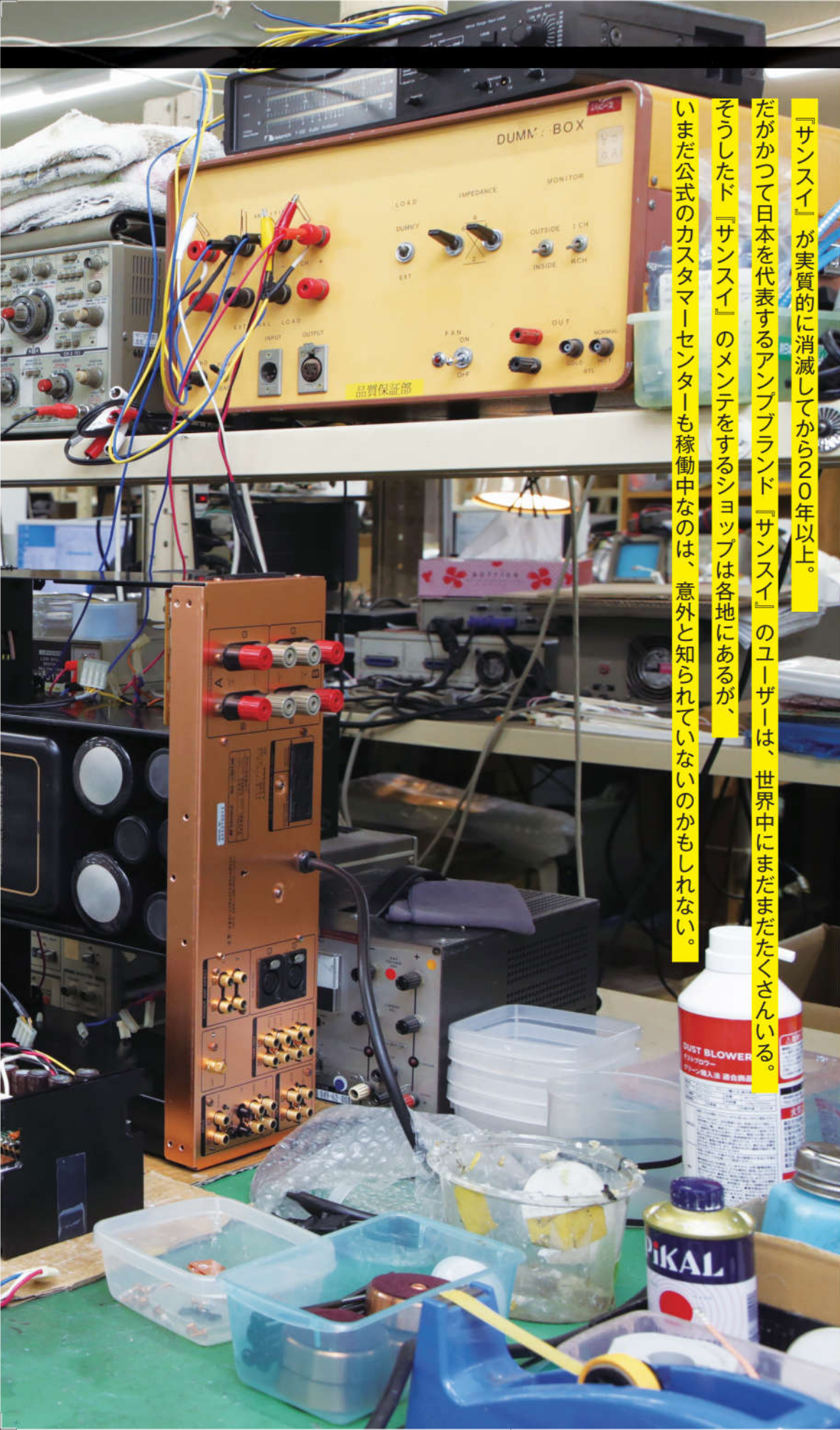
# 今でも『サンスイ』を支え続けるカスタマーセンター

「サンスイ」が実質的に消滅してから20年以上。

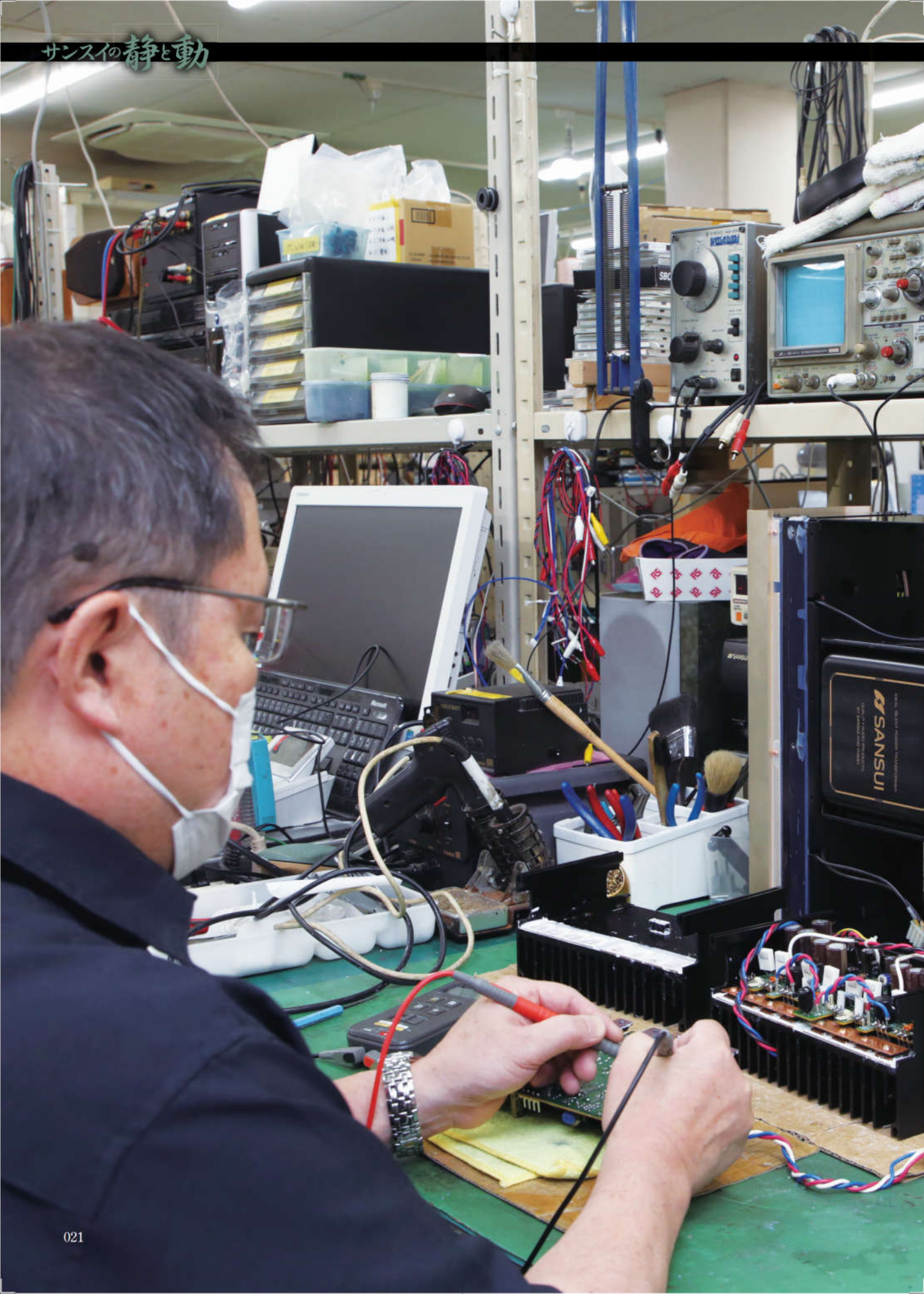
だがかつて日本を代表するアンプブランド「サンスイ」のユーザーは、世界中にまだまだたくさんいる。

そうした「サンスイ」のメンテをするショップは各地にあるが、

いまだ公式のカスタマーセンターも稼働中なのは、意外と知られていないのかもしれない。











IDK 特殊機器事業部長

## 永田正一

サンスイが解散する以前から、サンスイのグループ会社の製品のサービスを請け負っていた関係で、サンスイのサービスセンターの事業を統括することになった永田氏。サンスイとの関わりは長い。

### 今も生き続ける サンスイ・カスタマーセンター

かつて勇名を馳せた国産アンプの雄、山水電気（以下、サンスイ）だが、その最後はひっそりとしたものだったようだ。

1990年代の初め、バブルの崩壊を待たずに、経営は急激に傾いていった。セミテック（香港）、グランデ（香港）と中華系持株会社の傘下を渡り歩き、2001年には最後の工場だった福島工場も売却。会社としては2014年に破産ということになっていくが、2001年にはメーカーとし

ての活動を終えていた。

茨城のIDKに声がかかったのは、福島工場を閉鎖したあと、2003年くらいのことだったという。この頃はすでにグランデの傘下に入っていて、ナカミチ、アカイと錚々たるメーカーと同じグループになっていた。

日本ではナカミチの大道武社長がサンスイの社長も兼任。渋谷に3ブランド合同の本社を構えていたが、すでに売るのはなかった。サンスイとナカミチのカスタマーセンターも閉鎖するために、サービスの委託先を探していたのだった。そこで同じくグランデの傘下にあった台湾のモニターメーカー、



正式なサービスセンターの強みは、全ての資料がここに揃っている、ということ。サービスマニュアルから取扱説明書、カタログまで、サンスイの製品に関するデータはここにある。

ケーブルトニクスのカスタマーサービスを請け負っていたIDKに声がかかったというわけだ。

この時点でサンスイが保有していたすべての補修用パーツとサービスマニュアルやカタログ、取扱説明書などの資料を受け継いだ。それ以来、公式なサンスイのカスタマーセンターはここIDKの特殊機器事業部ということになっている。

そう、サンスイ最後のオリジナル製品が世に送り出されてからすでに20

年以上が経つが、いまだにカスタマーセンターは健在なのだ。

ちなみにナカミチのカスタマーセンターも数年前まで担っていたが、ナカミチ専属の技術者が定年退職し、ナカミチを直せる技術者がいなくなり、ナカミチのカスタマーセンターは閉鎖している。

### カスタマーセンター存続のために

IDKがカスタマーセンターを引き継いだ当初、サンスイの製品の修理だ





サンスイが新製品を出さなくなってからすでに20年以上が経過しているが、いまでも月間100台以上の修理依頼があるという。いかにサンスイが愛されているかの証左といえよう。



IDK 特殊機器事業部  
オーディオ課主任

## 倉持浩行

もともと永田氏と同じく電子機器のサービスを担当していたが、サンスイのサービスセンターを引き受けることになり異動。「オーディオの奥深く難しい」というが、誠実な人柄でユーザーに寄り添う。

けで、月に1000件ほどの依頼があったという。  
 当時はまだ新品で買ったユーザーが故障したからと、買った販売店に持ち込み、販売店経由でIDKに依頼されることが多かったのだ。  
 だがその依頼も、当たり前だが徐々に減っていった。15年ほど前に、このままサンスイのカスタマーセンターを続けるかどうかの転機があった。その時に永田正一氏が責任者となり、カスタマーセンターの存続を上申。社長からカスタマーセンターの舵取りを一任されることになった。  
 販売店経由だった依頼を、ユーザー

が直接カスタマーセンターに依頼する方式に変更するなど、事業として存続できる形を整えてきた。また一時は落ち続けた修理件数も、ここ数年は月に100〜150件程度で安定しているそうだ。しばらくはサンスイのカスタマーセンターは安泰のようだ。  
 その一方で徐々に純正パーツは底をついてきて、もう新品の外装パーツもほとんど残っていない。  
 だが広大な倉庫を活かし、大量のパーツ取り用の中古品をストック。いまのところサンスイ製品については問題なく引き受けることができている。  
 取材当日も「これは直ったばかりで、





資料と並んで貴重なのが純正パーツ類。作業場は手狭なのでここには良く使われる部品のみが並び、特殊だったり使う機会の少ないパーツ、また大型のパーツは倉庫に保管されている。

テストの後、オーナー様に引き渡す予定です」と見せてくださったのは木製のキャビネットを持つ3点セット。まるで新品のようにピカピカだ。

パーツ取りのストックヤードではミニコンやDVDプレーヤーなど、サンスイというブランドから連想される重厚なアンプだけでなく、ビジュアル製品に力を入れていた時代の製品も多く在庫されていたので、その時代の製品の修理依頼もあるのだろう。

返却待ちの機器が置かれた場所では、先に書いた3点セットから、1999年に発売されたA.U.111ヴィンテージ1999、60年以上も続くサ

ンスイ・アンプの歴史のトリを飾るモデルまで並んでいた。まさにサンスイの歴史を俯瞰する思いだ。

**直すだけにあらず**

先ほど純正パーツが底を付いてきたと記した。だが24ページの写真のとおり、大型の引き出し付きキャビネットにはよく使われる純正パーツが、また1階にあるストックヤードにはあまり出番のない純正パーツが、やはり大型のキャビネットに大量に残っている。部品取りの中古品も豊富にある。もちろん回路図等のサービスマニュアルも揃っている。



純正パーツの在庫がないものは、中古の機器から取り外して使用することも多くなってきたという。こちらはドナーとしてストックされている機器。別の倉庫にもストックがあるそうだ。

こうしたカスタマーセンターならではの強みを活かし、永田氏が始めたのが純正レストア品の販売だ。

直接修理品を持ち込んだり、引き取りに訪れるオーナーと打ち合わせしたり、機器を確認するための部屋が、社屋の入り口近くにある。その壁面にあるラックにはきれいに仕上げられたアンプが並んでいる。

新品並という言い過ぎだが、中古オーディオ店なら、Sランク、Aランクに該当するような美品揃いだ。

永田氏によれば部品取りのために入手した中古品や、引き取り手のない修理品などを、きっちり直し販売しているのだという。ただし展示販売のみで、通販などには対応していないとのこと。

個々の機器の状態やモデルにもよるので具体的には記さないが、下手に修理を依頼するよりもお得では、と思ふような価格で販売されていた。ちなみに、707あたりの修理を依頼すると、通常4〜5万かかることが多いという。あと2〜3万出すと、キレイに仕上げ





レアなモデルもサービスで入庫するという。AU-111 Vintage1999は最初のモデル(限定200台)に加え、後から追加されたゴールドモデル(限定100台)も並ぶ。



おそらく1960年代のものだろう、3点セットも修理している。「木工が大変だった」と言うが、まるで新品のような美しい仕上がりに。ここまで来るとまるで家具職人だ。



SANSUIカスタマーセンター  
IDK 特殊機器事業部

URL:<https://idkcorp.co.jp/service/service9/>  
住所:〒300-2354 茨城県つくばみらい市新戸110-1  
電話:0297-57-7637 営業時間:9-17時  
定休日:土日・祝日(年末年始、夏季休業あり)

られたアンプが買えるとしたらどうだろう。  
最近ネットオークションなどでは、怪しい業者や素人の個人が適当に直した(直っていないことも多い)ものを「整備品」として売るケースも散見される。そのようなものに出すのであれば、カスタマーセンターがきちんと直して仕上げたレストア品を入手するのは賢い選択と言えるのではないだろうか。  
陳列されているアンプを眺めている

とサイドウッドの代わりに石材をサイドに貼られたアンプが目についた。「県内の石材店と一緒に作ってみました」と永田氏。「こんなものもあります」と見せてくれたのは金メッキされたピカピカのスピーカーターミネラルだった。壊れた純正品の代わりにリプレイスしたり、グレードアップパーツとして交換することもできるのでうだ。これなら純正パーツが底を付いても大丈夫そう。安心してIDKを後にした。

純正レストアとも言うべき、正規のサービスマニュアルと可能な限り純正部品を使い、きちんと仕上げられたアンプが並ぶ打ち合わせ室兼試聴室。これらのアンプは販売もされていて、程度に比べるとお買い得なものが多い。また保証も付くので、サンスイ・ファンは検討の価値、ありだ。